

清末民初の白話新聞に現れる日本語借用語

矢野 賀子

Noriko YANO

日清戦争後、清朝は近代化のため日本に多くの留学生を派遣し、また国内でも盛んに日本語を学習する状況が出現した。結果として、当時発行された書籍、新聞には、日本語の語彙が多く使われるようになり、また巷でも日本語を使うことが一つの流行¹⁾のようになっていた。清末民初の白話新聞²⁾にも、日本語からの借用語が多く出現する。本稿では、20世紀初頭に北京で刊行された白話新聞の“演说”（社説・論説に相当する）、“本京新聞”（地元北京のニュース）、さらに新聞小説に現れる日本語からの借用語例を分析した。分析結果を、1. 消失語：現代の“普通话”（いわゆる標準現代中国語）ではすでに使われなくなったもの、2. 同形語：現代中国語で使われているが、すでに当時持っていた意味をなくしたもの、に分類して論述する。

本論に入る前に、「白話新聞」について少し説明しておく。

当時の北京の知識人たちは、中国人の文明開化を喫緊の問題と考え、啓蒙を促すために「白話」による新聞を競って刊行した。「白話」とは、“文話（文章体）”に対して使ったもので、さらに言えば、「平易な言葉」という意味である³⁾。平易な言葉で人々に公平な情報の提供を目指した。「白話」で書くことを標榜しているが、実際には文章体で書かれた文章も少なくない。当時はまだ文言一致がなされていない時代であり、もちろん標準語もない時代に平易な文章を書くことは非常に困難であったことは想像に難くない。⁴⁾

編集者たちは、平易な文章で書こうと努める一方、読者を啓蒙するために、いろいろな工夫をしている。『京話日報』では「児童解字」の欄を設け、漢字一字一字の意味を紹介したり、「造句」の欄では新語を紹介している。また、必ずしも正しい解釈とはいえないが、社説の中に出てきた新語に注釈を付けている場合もある。社説《海外华商说的话》⁵⁾から日本語からの借用語の例をいくつか挙げておく。（下線は筆者が加えたものである。）

● 资本家（資本家）：

- (1) 姓某号某某，在大阪经商多年，开著个杂货店，又在烟台开一座烟卷公司，也算是中国一个资本家〔出本钱做买卖，叫资本家〕。（姓を某、号を何々という者が、大阪で長年商いをし、てきて、雑貨店を開いているが、さらに煙台にもタバコ会社を設立した。中国の資本家の

一人でもある〔元手を出して商いをする者を資本家という〕。〕

● 直接 - 间接（直接－間接）：

- (2) 作官发财，这样艰难，与其找这不把稳的事，用间接法子发财〔隔着人的事，都叫间接〕，何如自己求自己，还是直接发财妥当〔直接发财，就是将本图利，不必托人〕。（役人になって財を成すことが、こんなに大変なら、不確かなことを求めて間接的な方法で財を成そうとするよりは〔人を介することを間接と呼ぶ〕、やはり自分を頼みにして、直接財をなすのがよい〔直接財をなすとは、元手を出して利を求めるのに、人に頼む必要がないことである。〕）

● 历史（歴史）：

- (3) 这就是我为商的历史〔经历过来的实事，就叫历史〕。（これこそ私が商人となった歴史である〔経験してきた実際の事柄を歴史という〕。〕

● 团体（団体）：

- (4) 华商在国外，总算有团体〔大家结成一团〕。（華僑の商人は国外では、だいたい団体がある〔みんなで一つの団を結成する〕。〕

● 貿易（貿易）：

- (5) 好在华商在日本贸易〔做买卖就叫贸易〕，资本也还丰厚，很可以跟外人争利权，外人不至看不起华商。（幸いにも華商は日本で貿易をしており〔商いをするを貿易という〕、資本も潤沢で、外国人と利権を争うことができ、外国人も華商を軽んじるようなこともない。〕

1. 消失語：

借用語として使われていたが、最終的には現代中国語語彙に採用されなかった語についてみていく。（矢印の後には現代中国語で使われる単語を示す。例文の末尾に出典とその文章の発表年を記す。）

● 卒業→毕业。

「卒業」は『和英語林集成』の三版（1872）及び『哲学字彙』（1884）に収録されている。“毕业”の使用数の方が圧倒的に多い。(7)のように、“卒業”と“毕业”の両方が使われている場合もある。語用的には、“卒業”は*“卒了业”の形をとることができない。

- (6) 单说这位王先生，就在小额的房后头住，原先是个赶车的出身（有轮子行儿卒業的文凭），给北京出名的医家存先生赶车，常听存先生讲究，甚么浮沈迟数⁶⁾啦，甚么这个汤头啦，那个药性啦，他就很爱惜。（この王先生について言うと、小額の家のすぐ裏に住んでいて、元は車引きで〔車引きの卒業証書を持っている〕、北京の有名な医者（の車引きをしていて、その医者がいつもやれ遅い脈だ速い脈だの、やれこの処方だ、やれその効能だと言っているのを聞き覚えてとても大事にしていた。）《小額》1907年

- (7) 老三生下来就有点儿先天不足，后天缺奶，活到十五六岁，长了个细脖大脑袋、罗锅腰，连个笤帚把儿，似乎都有点拿他不动。幸而会写几个黑道道字，在本县高等小学毕业了之后，得了张卒業文凭，就在家中一待，侯老夫妇很不高兴。（侯三（は）は生まれた時から虚弱で、後で乳が足りなくて、15、6歳まで育ったが、首が細く頭でっかちで、腰が曲がっていて、箒で

さえも持てないようなありさまである。幸いに字が書けたので、本県の高等小学校を卒業して、卒業証書をもらったが家にこもってばかりで、侯老夫婦は機嫌が悪かった。)《七妻之议员(3续)》1921年

- (8) 如今他才卒業归国, 没有半年工夫, 便赶上革命的动乱。(今日彼がやっと卒業して帰国すると、半年も経たぬうちに運悪く革命の動乱に出くわした。)《北京(1)》1923年

● 事務所→办事处、办公室。

『日本国語大辞典』では「事務所」は「事務を取り扱う所。オフィス。」の意で、初出を明治29年(1896)とする。(『和英語林集成』では、「事務」はbusinessに訳す。)(10)(11)は当時事務所の意味で使われていた“办公厅”、“办公馆”の用例である。

- (9) 这就设立一个绝大的机关。好比一个公司是，股本不多，交易不广，也没有工厂去制造，也没有商店去发行，偏要盖这一座大洋楼，立一个绝大的事务所。既有了事务所，势不得不用事务员、安电话、点电灯，空花了若干的钱，其实无事可办。(そこで非常に大きな役所を設立する。まるで一つの会社のようなのだが、資本は大したことなく、広く交易するでもなく、製造工場もなく、ものを売る店もないのに、どうしてもそのような大きな洋風の建物を建て、りっぱな事務所もつくるという。事務所ができれば、事務員を置かなければならず、電話や電灯も必要だ。無駄遣いをしたあげく、実はする仕事がないのだ。)《演说·减政芻言(续昨)》
- (10) 简断捷说，貝志到各处稟见一概没见。后来到吴总办公馆稟见，偏巧赶上吴世仁在家。(簡単に言うと、貝志はいろんな所に行って面会を求めたが、どこでも会えなかった。のちに、呉総督の事務所へ行って面会を求めると、ちょうど呉世仁が家にいた。)《二十世纪新现象》1913年
- (11) 伯雍随着二位科长到了办公厅。(伯雍は二人の科長の後について事務所に行った。)《北京(46)》1923年

● 通信员→通讯员。

『日本国語大辞典』では「通信員」を「新聞社、雑誌社、通信社などに所属し、内外各地に派遣されてその地域のニュースを本社へ通知する人」とし、森鷗外の『舞姫』(1890)を初出とする。(12)の“記者”は、『進化報』を創刊した蔡友梅で、“通信員”を使ってニュースを取っていた。

- (12) 十七年前，记者办《进化报》时，据山东通信员报告，英属印度人在某处(地点一时忘却)枪伤农民。(17年前に、私が『進化報』を出していた時のことだが、山東の通信員から英国属のインド人が某所[場所はちょっと忘れた]で農民を銃で怪我させたと報告してきた。)《余墨·朝鲜人也叫横》1921年

● 医长→(医院里的)科主任。

『日本国語大辞典』では「医長」を「病院などで、各科の主任の医師」とし、有島武郎の『或る女』(1911-1913)を初出とする。

- (13) 从先有个医长(现已故去)，作了一阵子好买卖。每逢到院试诊，总得拜他为老师(拜老师自然得有恭敬了)，必然给你出好考语，否则不行。(かつてずいぶん長い間うまい商売をしていた医長[既に亡くなっている]がいる。毎回病院に来て診察してもらう時、必ず彼に弟

子入りをしなければならなかった〔弟子入りをするには当然贈り物が必要〕。そうすればあなたには良い診断結果が出されるが、そうでなければ駄目であった。)《余墨・瘋大夫》1921年

● 根性→品性, 脾气。

「根性」は『和英語林集成』では、character, spiritに訳されている。

(14) 有什么法子？他们这辈子也不能明白了。他们须把猜忌和依赖的根性去掉，就能明白了，而且也能有饭吃。(どんな方法があるんだい。彼らには一生かかってもわからないだろう。妬みと人頼みの根性をなくしてしまわなければならない。そうしたら、わかるだろうし、食べてもいいけるだろう。)《北京(155)》1923年

(15) 大凡野蛮未开化的人民，总以达到残忍目的算是一快乐。直到如今，所以有强奸的行为，也都只为人类的野蛮根性未退。(およそ野蛮な未開の人々は、いつでも残忍な目的が達成されると一種の快樂を覚える。今もって、強姦の行為があるのも、すべて人間の野蛮な性質がまだ退化していないためだ。)《北京(165)》1923年

● 品物→物品, 东西。

“物品”は“贵重物品”“值钱物品”“违禁物品”等、用例が非常に多い。

(16) 等他们手艺学成，便不教他们再营贱业，在家里安分守己的另营劳工生活，用自己劳力，供给社会上必要的品物，因而获得一种正当的报酬。(彼らが技術を身につければ、また卑しい仕事に戻ることなく、家で慎ましく働いて暮らし、自分の働きで社会に必要な品物を供給し、それに見合った報酬を得られるようになる。)《北京(159)》1923年

● 詐欺→欺詐。

『日本国語大辞典』では、「詐欺」は「詐欺取財」の略とする。(17)(18)の例は、日本語と同様の使い方である。

(17) 时至今日，三多之外，新添了四多(一共七多)，是卷款潜逃的多，拐带人口的多，詐欺取財的多，图财害命的多，这也叫作文明进化。(今日に至っては、「三多」〔筆者注：多いもの3つ〕のほかに、新たに四つの多いものが加わり〔全部で七多になる〕、すなわち金の持ち逃げが多い、誘拐犯が多い、詐欺取財が多い、金目当ての殺人が多いで、これも文明の進化というのだろうか。)《益世余譚・七多可怕》1919年

(18) 财主金有个本族的侄子，叫作金三詐，也念过书，下了不少场，也没能进学，倒把写呈子学会了，当了二代书。因为詐欺取財，在县里押过半年多，这家伙是个极下流无赖的人。(資産家の金には、本家筋に一人甥がおり、金三詐という名である。勉強をしたこともあり、何度も科挙の試験を受けたが進学できなかった。ところが訴状が書けるようになっていたので、代書屋を二年ほどやり、詐欺取財の罪で、半年余り県の牢屋に入ったこともある、まったくくろくでもないやつである。)《方圓頭(19)》1921年

(19) 你看现在詐欺拐骗的事情，那天没有几挡子？(今では詐欺誘拐事件が毎日何件も起こっているでしょう。)《余談・人多的原故》1921年

(20) 巡长一听，是个和尚以詐欺行为骗取良家妇女，而且又是广化寺的方丈，不但违背法律，更属有伤风化。(巡查部長が聞いたところ、僧侶が詐欺を働き良家の婦女をだましたというこ

とであり、しかもその僧侶がなんと広化寺の方丈であり、法律に背いているばかりか、さらに風俗教化を損なう行いであった。)《北京(138)》1923年

● 麻雀→麻将。

『日本国語大辞典』には麻雀(マージャン)は明治末期にアメリカと中国から伝わったとある。蔡友梅は1919年末連載中の随筆コラムに“自麻雀之文明輸入, 十有余年, 共和以还, 非常发达。”(マージャンという文化が輸入されてより十有余年になる。共和以後は、非常に盛んである。) ⁷⁾と書いており、また1909年に刊行された《燕市积弊》にも“近来一兴麻雀牌”とあり、麻雀が北京に伝わったのはほぼこの頃のような。1920年代から“麻将”の例(24)(25)が見られる。

(21) 近来一兴麻雀牌, 比摊、宝、牌九又省事啦, 只要俩人一生点儿(就是用暗号叫张儿), 拿过来就得。(近頃麻雀がはやっているが、攤牌や庄宝、牌九 ⁸⁾よりも簡単で、二人がぐるになれば[合図をすることを“张儿”という]、そのパイを取って上がりになる。)《燕市积弊・反喜》1909年

(22) 我有好几天没出门, 这姚西齐也不来。我去找一找他, 把他请了来, 再约上一位, 咱们四个人打个小麻雀儿, 你看好不好? (私は何日も外に出ていないんだ。あの姚西齊も来ないし。ちょっと彼を探しに行って、彼に来てもらい、更にもう一人呼んで、我々四人で麻雀をしよう。どうかね。)《何喜珠(15续)》1913年

(23) 处在二十世纪, 生存竞争的时代, 你老哥居然不会打麻雀! 实在危险(不会打麻雀会危险, 实在奇谈)! 连麻雀都不会打, 你怎么够国民的资格呀?(二十世紀の競争時代にあつて、兄貴はなんと麻雀ができないとは。実に危ないね[麻雀ができないから危ないとは、全くおかしいことだ。]! 麻雀もできなくて、国民の資格はないだろう。)《理学周(7)》1919年

(24) 从此鲍鹤年便在署内一住, 白天无事, 同几个亲近师爷打打麻将牌, 夜里……。(これより鲍鹤年は役所内に住むことになり、昼間は用事がないと、何人かの仲の良い幕僚と麻雀をし、夜は…。)《衢州案(再续)》1919年

(25) 时常听他们说上后河沿福家去看姑娘, 并说他那儿大烟麻将牌, 无一不备。(よく彼らが後ろの川沿いの福家へお嬢さんを見に行くと行っていたし、そこにはアヘンに麻雀牌にと揃っていないものはないと言っていたよ。)《七妻之议员(10续)》1921年

● 撮影→照像、拍照。

『明治のことば辞典』に明治時代の新語とある。

(26) 开会的顺序, (一)军乐鼓奏。(二)振铃开会。(三)县长潘公致欢迎辞。(四)请鹤、惻二位演说。(五)高等小学学生唱歌。(六)来宾演说。(七)风琴鼓奏。(八)军乐鼓奏。(九)振铃闭会。(十)撮影。(開会の順序[一]軍楽隊演奏[二]開会のベル[三]県長潘公歡迎の辞[四]鶴、惻両氏挨拶[五]高等小学校唱歌[六]来賓挨拶[七]オルガン演奏[八]軍楽隊演奏[九]閉会のベル[十]撮影)《怪现状》1917年

● 活动照像→电影。

当時の中国語にすでに“照像(写真)”、“照像匣儿(カメラ)”という言葉があり、“活动照像”は「活動写真」の「写真」部分を中国語語彙“照像”に置き換えた半借用語である。“活動写真”は

『明治のことば辞典』に所収。

- (27) 东长安街洋酒店, 新到了好些个活动照像片〔俗叫电影戏〕。(東長安街の洋酒店に新しく映画のフィルムがいくつか〔“电影戏(電影劇)”ともいう〕が届いた。)《演说·平安电影可看》1906年

● 住所→地址。

「住所」は『和英語林集成』に収録されている。“住所”より“住址”“地址”の用例がはるかに多い。

- (28) 秀卿の娘见说, 才有点放心, 把现在的住所详详细细的告诉了伯雍, 告辞去了。(秀卿の母親は〔そう〕言われて、ちょっと安心したので、今の住所をそれは細かく伯雍に伝え、帰っていった。)《北京(132)》

- (29) 在这金陵城十字街, 开着一坐牛肉作坊, 后边是他的住所。(この金陵城の十字街に牛肉屋を開いていて、後ろが彼の住まいである。)《何喜珠(五续)》

● 便利→方便。

「便利」は『和英語林集成』ではconvenienceに訳されている。中国語には本来“方便”という形容詞があり、“便利”は(30)(31)のように“交通便利”と「交通」とセットで取り入れられたと考えられる。後に(32)のように「都合がよい」「役に立つ」の意味で単独で使われる。“交通”の定着とともに、“便利”も単独で使われるようになるわけであるが、“方便”を凌駕するまでには至らない。現代中国語では最近“便利店”(コンビニエンスストア)と名詞の構成要素として復活している。

- (30) 该处水陆交冲商贾荟萃, 因为交通便利, 人民十分开通。(そこは水陸交わり、商人が集まる。交通が便利であるため、人々の考えもかなり開けている。)《董新心(1)》1921年

- (31) 彼时该处风气未开, 诸事简陋, 自交通便利以来, 听说诸事很透进化。(あの頃その土地は風習がまだ開けてなくて、諸事おおざっぱであったが、交通が便利になってより、諸事非常に進化したと聞いている。)《益世余谭·怪事很多》1920年

- (32) 现在我国文明进化, 所有大小各种商业亦多与之俱进, 即以普通食物论, 凡可以机器代人力者, 无不次第行之, 如冰激凌、棉花糖, 以及切面、肉馅儿等物, 无不改用机器, 既省人工, 又能适用, 实较从前便利的多。(いま我が国の文明は進化し、すべての大小各種の商業もまたともに進化し、普段の食べ物についていうと、およそ機械が人力に代わって作れるものは、すべて機械に変わっていつている。例えば、アイスクリーム、綿菓子、さらに面を切ったり、肉をミンチにするなど、みな機械が作っている。人手を省き、うまく作れて、以前に比べるとずっと便利である。)《都市丛谈·机器切面》1927年

● 下品→下等。

- (33) 这位憨爷, 却是居处自如, 毫不介意, 成天到晚, 竟跟书本儿扎上啦。他总说是万般皆下品, 惟有读书高。(この憨坊ちゃんはというと、自由気ままに、まったく〔筆者注: そんな結婚話など〕頓着せず、日がな一日読書三昧であった。彼はいつも何事も卑しく、読書のみが高尚であると言っていた。)《李傻子(1)》

- (34) 各界同胞, 总不惜老年人生死关头, 亦当怜小国民将趋下品; 总不顾穷街陋巷, 亦当爱首善

都城。(各界の同胞よ、たとい老人が死ぬか生きるかの瀬戸際であることを思いやらぬとしても、小国民が下品になっていくことを哀れむべし。たとい裏通りは放っておくとしても、この首都は大切にすべし。)《益世余譚・閱報濟貧》1920年

● 开化→发达, 发展。

“开化”は日本語「文明開化」の借用である。

(35) 现在人家知识开了, 文化进了, 国家强了, 天天笑话我们中国, 说我们是野蛮, 知识不能开化, 国家总不能强盛, 打仗总不能争胜。(今彼らは知識に明るく、文化的で、国は強国となり、毎日我々中国を野蛮だ、知識が開化しないから、国はいつまでも強くならないし、戦争にも勝てないと笑ひ者にしている。)《演说・平安电影可看》1906年

(36) 大凡野蛮未开化的人民, 总以达到残忍目的算是一快乐。(およそ野蛮で未開の人間は、いつでも残忍な目的が達成されると一種の快樂を覚える。)《北京(165)》1923年

(37) 近来人民开化, 教徒的程度也增高, 所以相安无事, 轻易不出什么原故了。(近頃人々が文明開化し、信徒の程度も高くなったため、何事もなく平和で、ちょっとしたことでなにかもめごとが起こるようなことはなくなった。)《五人义(2)》1921年

(38) 按中国数千年相传的道德, 就是孝、悌、忠、信、礼、义、廉、耻, 外国的道德, 也不外乎这八样。虽然范围有广狭之不同, 究其实说, 大同小异。不必说开化文明国, 就是野蛮部落, 也离不开这八个字。(思うに中国数千年来伝わる道德とは、つまり孝、悌、忠、心、礼、儀、廉、恥であるが、外国の道德もこの八字から外れていない。広狭の違いはあるが、その内容を問えば、大同小異である。文明開化の国はいうまでもなく、野蛮な部族でもこの八字が欠かせない。)《益世余譚・骇人听闻》1920年

● 宣布→公开宣扬。

『日本国語大辞典』では「政府などが公式に広く知らせること」「公表する、公にする」。

(39)から(41)の例は、公的機関が公表するのではなく、私的に周りの人に知らせる意味で使われている。

(39) 这当儿傻大姐儿正给何氏装烟, 朱氏瞧了他一眼, 又瞧了何氏两眼, 又冲着三太太努了努嘴儿。朱氏心里的意思, 是让傻大姐儿宣布实话。(この時おバカの下女は何氏に煙草をつめているところで、朱氏が彼女にちらりと目をやった後、何氏を見やり、次に三太太に向かって口をつきだして合図をした。朱氏が考えていたことは、おバカの下女に本当のことをみんなに話させることだった。)《过新年(55)》1918年

(40) 丸散膏丹内容的事情, 记者都知道点, 也不必给人家宣布。(丸散膏丹の成分については、私はすべて知っているが、それを公表してやる必要はない。)《益世余譚・药铺门面》1919年

(41) 比方说, 他家里贩黑货、开宝局, 真而又真, 切而又切, 你要给他一宣布, 他就该不认账啦。(例えば、彼が家でアヘンを売り、賭博場を開いていることは、本当のことで、確かであっても、もしそれを公にしたら、彼は認めないだろう。)《余墨・名利》1921年

(42) 见其走入, 遂将一件急待宣布的公事, 交给他们两个人在报发表。务要明天见报! (二人が入ってくるのを見るや、取り急ぎ公表する仕事を彼らふたりに伝え、新聞で発表させる。)《七妻之议员(10续)》1921年

● 生活程度→生活水平。

- (43) 如今生活程度是怎样？八口之家，租房、吃饭、子女教育费，以及衣履等项，一个月得多少钱？
（いまの生活程度はどんなですか。八人家族で、家賃、食費、子女の教育費、そして衣類など、一か月いくらですか。）《北京 (28)》1923 年

● 演说→评论，论说。

新聞では「社説」に当たる語として使われた。(44)は「語る」（“讲”）、(45)では皮肉って「演説する」、(46)は「話をする」（“讲演”）の意味で使われた例である。

- (44) 如今演说这段文字狱，亦是前清私家记载，并非鄙人信口开阖{河}。（これからお話しする文字獄は、前清の私家の記載であり、私の出まかせではありません。）《文字獄》

- (45) 临完对着母亲说了句漂亮话：“妈，就不用演说啦。不让我嫁范郎，那一时门儿外头锣鼓儿一响，我豁{剷}肚子行不行？”（終わると母親に向かってきっぱりと言った。「母さん、演説なんかやめて。范さんに嫁がせてくれないなら、外で銅鑼と太鼓の音がしたらお腹を割いて見せるわ。それでもいいの。）」《杂碎录 (4)》1913 年

- (46) 铁王三说：“还有一件事，我要跟九叔商量。我打算备几棹酒席，本家不必说，至近的亲友，都请一下子。那天还求九叔演说一场。”王九赖说：“行！演说咱们不外行，咱们入过演说研究会。你讲怎么演说？是教育的？是科学的？是社会的？就是政治演说，咱们也有两套。”（鉄王三「それから九おじさんと相談なのですが、宴席を設けて、本家の人はもちろん、親しい親戚友人を招待するつもりなのです。その日におじさんに話をお願いしたいのです。」王九頼「いいとも。話をするのはお得意だ。私は演説研究会に入ってたんだから。どんな話がいいかい。教育についてか、科学、それとも社会についてか。政治演説もいけるよ。）」《鉄王三 (6)》1920 年

● 掲載→刊登，登載。

用例は非常に少ない。2例とも蔡友梅の文章である。

- (47) 后经报纸掲載，警察也注上意啦。（のちに新聞が掲載して、警察も注意するようになった。）《益世余譚・小于卖针》1920 年

- (48) 在郑州贩过黑货，同伙犯事，他逃回北京，勾串赌匪陈某等等，组织过游行赌局，曾被报纸掲載。（鄭州でアヘンを売っていたことがあり、仲間が悪事を働いたため、彼は北京に逃げ戻り、賭博やくざの陳某とつるんで、移動賭博場を開設し、新聞に載せられた。）《余墨・朱亚民撞木钟》1921 年

2. 同形語：

ここでとりあげる単語は同形で現代中国語でも使用されているが、現代中国語の語彙の増加、さらには細かな表現力が付いたことで、ここで取り上げた単語が当時表していた意味は現代中国語では別の語で表現されるようになったものである。したがって、最初に“内容”について考察するが、「内容」と訳してよい例文は挙げていない。他の借用語についても、現代中国語で使われる同形の語が持つ意味の用例は挙げていない。

● 内容：

「内容」は『明治のことは辞典』によると、ドイツ語Inhaltの訳語で、『類別索引書典・明43』は「うちわの容子」、『辞林・明44』は「①実質，なかみ。②内包。」と解釈している。以下の「内容」の用例は、日本語の「なかみ」という意味で使われており、「表面」や「表面的なこと・事情」に対して使われている。現代中国語で表現するならば、「内部」(49)(50)、「实际情况」(51)、「幕后」(52)、「内部情况」(53)(54)、「内情」(55)(56)、「里面」(57)、「本性」(58)(59)となる。

(49) 让秘书先搪他一水，搪走了就完了。搪不走，咱们再见，假哭假笑，假安慰，说甚么都答应着他，干答应不办，他是一点儿法子没有。等着他热气也耗过去了，他们内容，自己跟自己，一定起冲突。中国人没有两个人的团体。(秘書に一度その場を取り繕わせて、それで帰ってくればよい。それでも帰らないなら、会おう。ウソ泣き、作り笑い、慰めるふりをして、相手の言うことには何でも承諾するのだ。承諾するが、何もしなければ、相手はどうしようもない。相手の熱気が冷めるのを待っていれば、彼らの内部でお互いに衝突しあうから。中国人には二人の団体というのは存在しない。)《一壺醋(17)》1920年

(50) 乍一入机关作事，一个星期之内，还倒斂才就范。半个月之后，就不安本分，借势招摇，老含着詐欺取財的性质。一旦发觉，或被人请出，或自行告退。见了外人说起话来，光说这个机关怎么腐败，内容有什么毛病，主要人有什么私弊，同人怎么不够资格。(役所に入ると、一週間ほどはおとなしく模範的であるが、半月も経つと、本分をわきまえず、人の勢力をかさに着て虚勢を張り、人の金品をだまし取るようなことをする。見つかるや、解雇されるか、自ら辞職となるのであるが、事情を知らない人には、この組織はいかに腐敗しているか、内部にはどのような問題があるのか、上の人間がどんな不正をしており、同僚はいかに性格が悪いかということばかりを話すのだ。)《张文斌(25)》1920年

(51) 钟氏向钟社说道：“哥哥，您方才说这话，您是不知道我们的内容。现在我们这个年就难过。今天我把你找来，没有别的，我打算跟你暂借几两以度年关。”(鐘氏は鐘社に向かって、「兄さん、先ほどあのようにおっしゃいましたが、兄さんは私たちの実情を知らないのです。今の私たちは年越しができません。今日おいでいただいたのは、ほかでもありません、兄さんにしばらくの間年越しのために数両お借りするつもりでした。」と言った。)《一壺醋(24)》1920年

(52) 把铁王三的动产不动产，调查清楚，一共分了三股，把二秃子的承继取消，分给他三成家产；王九赖等族人，也分三成；王英的次子三秃子，承继王氏为嗣，下余四成产业，归他们掌管。这是表面的办法，内容的办法，三家所得的产业，各由十成内提出三成来，酬谢中人，钱串子周表示毫无沾染，至于他们的内幕，是钱串子周得六成，贺二跟马子皮各得二成。(鉄王三の動産と不動産を調べ上げて三分類し、二秃子の継承を取り消し、彼に財産の三割を与えた。王九頼等の親族にも三割を与えた。王英の次男三秃子は王氏の後継ぎとなるため、残りの4割の不動産を彼らのものとした。これは表向きの方法だが、裏の手口はそれぞれが三割の謝礼を仲介者に払うため、錢串子の周が全く金に手を付けていないといっても、彼らの内部では、錢串子の周が〔仲介料の〕六割を取り、賀二と馬子皮がそれぞれ二割を取っていたのである。)《鉄王三(24)》1920年

- (53) 从先的团练，到处都是腐败敷衍，就是个名目而已（这话也不尽然，从先曾胡左李诸公，也都办过团练，人家那团练是怎么回事，足见事在人为）。共和之后，各省都练保卫团，听着挺好，内容也是他。（従前の団練⁹⁾は、どこでもすべて腐敗していい加減で、名ばかりのものであった〈そうは言うが、そうとばかりも言えない。以前曾国藩・胡林翼・左宗棠・李鴻章の諸公も団練を組織したことがあったが、彼らの団練はどうであったか、事の成否はやり方次第ということがいえる〉。共和になってから、各省みな保衛団を訓練し、とてもいいと聞くと、内情〔筆者注：腐敗といい加減さ〕はやはり同じであった。）《赵三黑 (9)》1920 年
- (54) 现在有两个人，最熟悉他衙门的内容。（今役所内の事情に最も詳しいものが二人いる。）《张文斌 (26)》1920 年
- (55) 待遇虽然不好，还不至于十分虐待，老太婆有点受不住了，想起如芝夫妇的好处来，时常到这里住几天。如芝夫妇接过多少回，老太婆都不肯光临；如今自己来住着，内容也就不问可知了。（虐待とまではいかないものの待遇がよくなかったため、おばあさんは少し我慢できなくなり、如芝夫婦の好意を思い出し、よくここに何日も泊まりに来ている。如芝夫婦が何度も迎えに行っても、おばあさんはどうしてもおいで下さらなかったのだが、今は自分から泊りに来ている。その事情は聞かなくてもわかっていた。）《回头岸》1921 年
- (56) 要说这群孩子，也真算苦命。他们的内容，我略知一二。他们大多数是清江的人多，其余也有湖北，也有北京的。（この子たちも本当に哀れな運命だ。彼らの事情については、私も少し知っている。彼らの多くは清江の者が多く、他は湖北と北京の者だ。）《鬼社会》1921 年
- (57) 曾记去岁中央公园，来了一个大力将军，听说是俄国著名的力士，弄了些个铁玩艺儿，都重千儿八百斤，跟大家赌力赛比，真把大家滕住啦。随后出来一位楞大爷，唱了一出《举鼎》不帶《观画》¹⁰⁾，大力将军当时开腿。他这个玩艺儿，内容都是木质，外用铁叶包镶，虎事没虎成，闹了一场笑话。（昨年中央公園に一人の力持ち將軍が来たことがある。ロシアの有名な力持ちだそうで、鉄の道具を持っており、どれも千斤そこそこの重さがあった。みんなと力比べをして、みんなは騙されてしまった。あとで楞大爺が「観画」を省いた「拳鼎」をうたいながら登場すると、力持ち將軍はすぐさま逃げ出してしまった。彼のその〈鉄の〉道具の内部は木で、外側を鉄で包んでいたのだ。騙しきれず、笑いものになった。）《益世余譚・冤人老会》1919 年
- (58) 大爷没钱，他能够先借你几块，表面透好心，内容掏混账。（大爺に金がないなら、彼がまずいくらか貸すでしょうと、表向きは善意に満ちたものだが、本性はろくでなしである。）《一壺醋》1920 年
- (59) 这宗微生物，不吃别的，专吃慈善公益，表面大慈大悲，内容不实不尽。（このような微生物は、他でもなくもっぱら慈善公益を食いものにしており、うわべは情け深い、本性は誠実ではない。）《益世余譚・一个马杓坏一锅》1920 年
- 同情：赞成，想法一样（考えが同じである）。
- (60) 何氏当时改变方针，面子上跟凤仙假装联络感情，暗地里，背着周孝夫妇，跟几个少奶奶又开了两回秘密会议，很有些个计划，反正没有好主意，大家很表同情。（何氏はその時方針を開了两回秘密会议，很有些个计划，反正没有好主意，大家很表同情。）（何氏はその時方針を

変えて、表向き鳳仙と仲が良いように振る舞い、裏では周孝夫婦に隠れて、数人の嫁たちと秘密会議を二回開き、いろいろ計画を立てた。みんなはともかくこれといった良い案がないので、それに賛成した。)《过新年》

- 心理：改善提高現状の意志（現状を改善、向上させようとする気持ち）。

『明治のことば辞典』には「心理学」は「人心の働きとありさまとを研究するもの」（『ことばの泉・明29』）とあるが、(61)“没有心理”(62)“不长心理”の“心理”は、単なる「心の動き」という意味ではなく、引用文中の“人家的国民肯用心，讲究各样的学问”のような「向上心」を指していると考えられる。この文章の“心理”にはかなり深い意味を持たせた使い方である。新しい世界の動きに興味を示さない人々に苛立ちを覚える筆者の思いが伺える。

(61) 东长安街洋酒店，新到了好些个活动照像片〔俗叫电影戏〕。另外还有好些个新奇玩艺，我们去看了几次，很开心，很长见识。列位要知道，看电影戏，本是个玩艺儿，怎么会长见识呢。列位若是那么想，就叫作没有心理的国民了。不论怎样的国民，没有心理，维新到什么时代，都不能强国。玩艺儿虽是玩艺儿，有心理的人看见，一定能长见识。……因为人家的国民肯用心，讲究各样的学问，才慢慢的文明起来了，……想想人家外国，怎么会那样好，怎么会那样巧妙，怎么会有这种活动照像。（東長安街の洋酒店に新しく映画のフィルムが何本か届いた〔俗に“电影戏”という〕。ほかにも新奇なものがいくつもあり、我々は何度も見に行って、楽しみ、見識が高くなった。皆さんがもし、映画を見るのは、本来娯楽であるのに、どうして見識が高くなるのか知りたいと、こう考えるならば、それが向上心のない国民だということだ。どのような国民でも、向上心がなければ、改革をいつまで続けても、強国にはなれない。娯楽は娯楽であるが、向上心のあるものが見れば、必ず得るものがある。〔中略〕彼らの国民は努力を惜しまず、各種の学問を研究するからこそ、次第に文明化してくるのである。〔中略〕外国がどうしてあんなに良くなるのか、どうしてあんなに優れているのか、どうしてこのような映画が生まれたのかと考えるみることだ。〕《演说・平安电影可看》1906年

(62) 中国人不长心理，但知道怕外人。（中国人は向上心を知らず、ただ外国人を恐れることしか知らない。）《演说・平安电影可看（续昨）》1906年

- 司机：开车（車を操縦する）。

“司机”は現代中国語では「運転手」と名詞であるが、この時代は「機械を操縦する」と動賓構造で使われている。

(63) 汽车上司机的，两旁站着的，都是丘八太爷。（車の上で運転する者と両横に立っているのは、いずれも兵士である。）《库缎眼》1919年

(64) 据司机的说，昨天大人，并没叫他开车。（運転手が言うには、昨日閣下は、彼に運転させていませんでした。）《新黄梁梦（37续）》出版年月日不明

- 手术：技术（技術、技）。

(65) 二十年前，记者家中，就遭过这们一回诈骗，不过手术还差。现在的骗术，较比从先大有不同，虽然说是骗术，总算是进化。（20年前、我が家でもこのような詐欺にあったことがあるが、技術がもう一つだった。今の騙しの技術は、以前とはずいぶん違ってきている。騙しの技術ではあるが、まあ進歩しているといえる。）《余谈・总算进化》1921年

- (66) 我瞧这位教师爷，并没有什么出奇的手术，八成儿专门内科（不对，专门吹法螺）。（私の見るところ、この武術師範は全くなんの珍しい技も持っておらず、おおかた内科専門だろう〔いや、ほら吹き専門だ〕。）《讲演聊斋·白莲教（再续）》1921年
- 担任：承担（引き受ける、担当する）。
- (67) 是以联合同志张君凤林，杨君道卿，韩君文彬等，发起灾黎义务讲习所一处，择贫民中之幼年聪颖者，令其入所肆〔肆〕业，以资造就。所有经费及一切职务，概由发起人完全担任。（同志の張鳳林君、楊道卿君、韓文彬君などと連合して災害ボランティア講習所を立ち上げ、貧民の賢い幼い子を選んで、学校に入れて育成する資金とする。一切の費用と職務は、発起人がすべて担当する。）《余谈·无愧热心君子》1921年
- 社会：地方（場所）。
- (68) 错过我真渴了，决不进那个社会。（私は本当にのどが渴いたとき以外、あんな場所には足を踏み入れない。）《余谈·印子赵》1921年
- 传染：流行（流行る）。
- (69) 有人说，这是宗流行传染，一家跟着一家学。这宗理由也不甚充足。别的铺子不传染，怎么独单药铺传染呢？（ある人が、これは一種の流行りで、一軒一軒がまねたのだという。しかし、その理由も十分ではない。ほかの店では流行っていないのに、なぜひとり薬店舗だけに流行ったのか。）《益世余谭·药铺门面》1919年
- (70) 新学说无论怎样宣传，我想中国不容易受传染。（新学説はどんなに宣伝されても、思うに中国ではなかなか広まらない。）《北京（146）》1923年
- 组织：形成/变成（形成する・变化する）。
- (71) 天然近视眼没法子，甚至于不是近视眼，特意戴副浅近视镜，慢慢的组织近视。（生まれつきの近視は方法がないが、近視とまでいかないのに、わざと弱い度の眼鏡をかけていると、だんだんに近視になる。）《益世余谭·老大病夫》1919年
- 服务：业务，行业（業務、職業）。
- (72) 一旦被裁，稍知自强者，尚能入胶皮团服务，老弱残兵，除寻钱之外，别无他途。（ひとたび解雇されると、体力に自信のある者は人力車業に入ることができるが、体力のない者は物乞いをするほか道はない。）《益世余谭·花子食鸭》1920年
- 位置：给一个地位、职务（一つの地位、仕事を与える）。
- (73) 求人家遇机提拔，位置一个差使，让人家荐损了几句，就说给骂出来了。（機会があれば取り立ててもらい、役職を一つもらえないかと彼にお願いしたが、相手から辛辣な嫌味を言われ、ののしられてしまった。）《王有道（2）》1918年
- 取缔：管（監督する、しつける）。
- (74) 您要知道，小孩子若不严厉取缔，他们万不会老实的。（子供はもし厳しく躾けなければ、絶対というのを聞かない。）《北京（98）》1923年
- 家族：家属，家里人，家庭。
- (75) 假如我们国家社会到了良好地步，教育事业也很完美的，使内无怨女，外无旷夫，男女各色人民都有相当技能、相当职业，国家无论多大，和一个家族一样，上上下下全都以爱情和道

徳相处，那能会有妓女一行营业呢？（仮に我が国の社会が良好な状況になり、教育事業も完璧なものとなれば、うちに恨む女なく、外に年のいった独身の男なく、男女ともにふさわしい技能と職業を持てば、国がいかに大きくても、一つの家族のように、上から下まですべてが愛情と道徳に育まれる。そうなれば娼婦というような職業は存在しえない。）《北京(56)》1923 年

(76) 家里有财产还可以，若是一点财产没有，还要求家族团聚，那实在是坏事。（家に財産があるのならともかく、財産が全くないと、家族団楽を求めようとしても、それは本当にむづかしいことだ。）《北京(115)》1923 年

(77) 话已说明，请二位恩人设想，是不是我得脱离了家族的关系，才能保住我得{的}性命呢？（話しは以上です。お二人は、私が家族との関係を断ち切って初めて命が助かるとお考えでしょうか。）《何喜珠(30 续)》1913 年

以上、19世紀初頭の白話新聞に見られた日本語からの借用語の用いられ方を見てきたわけであるが、“内容”や“心理”のようにまだ十分に消化しきれていない用例から、「白話」で記事を書くべく苦勞する当時の知識人の姿がうかがえる。ここで取り上げた例は膨大な数の日本語からの借用語のほんの一部である。現代中国語の語彙に占める日本語借用語は7割にも上ると言われる。20世紀初頭に借用された語の多くがなお現代中国語として使われているわけであるが、日本語と同形である語も細かなニュアンスの違いがあり、さらに細かな研究が必要なことはもちろんである。本稿に取り上げた語についても、なお中国語本来の語彙の変遷に関する研究を十分に反映したものとはいいがたいものも多く、引き続き調査研究していきたい。また、この時代の白話新聞には、北京方言や隠語、符丁などが使われている。この方面での研究成果は、今年末に《清末民初北京话词汇释》として上梓の予定である。

【注】

- 1) 満嘴里的日本新名词、穿戴打扮不用说，自然是时派极了，所做的是不是打麻雀牌，就是逛南班子，所讲究的不是骑骑自行车，就是吃吃番菜馆。（口を開けば日本の新名詞、服装は言うまでもなく当然流行の先端をいっており、することと言えば、麻雀をするか、妓楼遊びをするかであり、話すことと言えば、自転車に乗ってみよう、洋食を食べてみようかである。）《演说・别给顽固人留话柄》《京话日报》第369号，1906.11.21
- 2) 白話新聞：本稿で使用した新聞は、20世紀初頭北京で発行された『京話日報』、『順天時報』、『進化報』、『白話捷報』、『愛国白話報』、『北京益世報』、『国強報』である。
- 3) “白話二字，是专对于文话而言，讲究是普通浅近的名词，免去深文奥义。”（「白話」の二字は、もっぱら「文言文」に対して言ったもので、一般的で卑近な言葉を重んじ、深遠で奥深い意味の言葉をなくする。）《演说・白话与京话之区别》《爱国白话报》
- 4) 1907年に蔡友梅によって創刊された《进化报》は、タブロイド判の新聞であったが、特に“本京新闻”の文章はすでに言文一致が実現されていた。「白話」の表現に成功した非常に珍しい例であるが、経済的理由で一年ほどで停刊になってしまった。
- 5) 《演说・海外华商说的话》《京话日报》第694号，1906年。

- 6) 浮沈迟数：浮脈（浅い脈）、沈脈（深い脈）、遲脈（遅い脈）、数脈（速い脈）。
- 7) 《益世余譚・麻雀普及》《北京益世报》1919.12.22
- 8) 攤牌や庄宝、牌九：「攤牌」はトランプのポーカー、「庄宝」はサイコロ賭博の一種、「牌九」は骨牌ともいい、デザインがドミノのような牌を使った賭博をいう。
- 9) 団鍊：地主階級の武装組織。
- 10) 《举鼎》不帶《观画》：《举鼎》、《观画》ともに京劇の演目である。劇の内容は、唐の時代、薛剛は問題を起こして、一族皆殺しの目にあうが、薛剛の甥の薛蛟は徐策に救われる。成長した薛蛟は、とてつもない力持ちで、門の石の獅子を持ち上げるほどだった。徐策はそのような薛蛟に先祖の絵を見せて彼の家の歴史を語り、かたき討ちをさせるというものだ。

【引用文献】

- 損公 ， 《一壺醋》，《筆記小説大觀 九編》第9冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《理学周》，《筆記小説大觀 九編》第9冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《张文斌》，《筆記小説大觀 九編》第9冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《赵三黑》，《筆記小説大觀 九編》第9冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《铁王三》，《筆記小説大觀 九編》第9冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《董新心》，《筆記小説大觀 九編》第10冊，新興書局（台湾），1986
- 損公 ， 《方圆头》，（报纸剪报本，现藏首都图书馆）
- 損公 ， 《二家败》，（报纸剪报本，现藏首都图书馆）
- 損公 ， 《鬼社会》，（报纸剪报本，现藏天津图书馆）
- 損公 ， 《库缎眼》，（报纸剪报本，现藏首都图书馆）
- 損公 ， 《五人义》，（报纸剪报本，现藏天津图书馆）
- 損 ， 《二十世纪新现象》，《顺天时报》1913.1.5—1913.11.25
- 亦我 ， 《怪现状》，《北京益世报》1917.3.18-1918.2.18
- 亦我 ， 《过新年》，《北京益世报》1918.2.19 -1918.6.4
- 亦我 ， 《回头岸》，《北京益世报》1918.6.5-1918.8.27
- 亦我 ， 《王有道》，《北京益世报》1918.11.7-1918.12.4
- 穆儒丐 ， 《北京》，《盛京时报》，1923.2.28—1923.9.20
- 冷佛 ， 《春阿氏》，内蒙古人民出版社，1998年
- 待余生 ， 《都市丛谈·机器切面》，《燕市积弊 都市丛谈》，北京古籍出版社，1995.5
- 亚铃 ， 《何喜珠》，《白话捷报》 1913.9.7—1913.10.13
- 自了生 ， 《李傻子》，《正宗爱国报》（第1607号-第1624号）
- 剑胆 ， 《七妻之议员》，《徐剑胆作品（二）》，首都师范大学出版社，2014.6
- 剑胆 ， 《衢州案》，《京话日报》1919.1.5
- 剑胆 ， 《文字狱》，《徐剑胆作品（二）》所收，首都师范大学出版社，2014.6
- 剑胆 ， 《新黄梁梦》，《徐剑胆作品（二）》所收，首都师范大学出版社，2014.6

- 松友梅著·刘一之标点/注释,《小额》【注释本】,世界图书出版公司,2011
- 愕愕声,《演说·白话与京话之区别》,《爱国白话报》(第26号),1913.8.24
- 愕愕声,《演说·减政芻言》,《爱国白话报》(第58号),1913.9.26
- 愕愕声,《演说·减政芻言》,《爱国白话报》(第57号),1913.9.25
- 作者未详,《演说·平安电影可看》,《京话日报》(第721号)
- 作者未详,《演说·平安电影可看》,《京话日报》第721号
- 梅蒐,《益世余谭·老大病夫》,《北京益世报》1919.11.21
- 梅蒐,《益世余谭·冤人老会》,《北京益世报》1919.11.23
- 梅蒐,《益世余谭·药铺门面》,《北京益世报》1919.11.24
- 梅搜,《益世余谭·七多可怕》,《北京益世报》1919.12.23
- 梅搜,《益世余谭·怪事很多》,《北京益世报》1920.1.12
- 梅蒐,《益世余谭·骇人听闻》,《北京益世报》1920.2.7
- 梅蒐,《益世余谭·花子食鸭》,《益世白话报》1920.3.8
- 梅蒐,《益世余谭·小于卖针》,《北京益世报》1920.4.8
- 梅蒐,《益世余谭·阅报济贫》,《北京益世报》1920.8.31
- 梅搜,《益世余谭·一个马杓坏一锅》,《北京益世报》1920.10.6
- 梅搜,《余谈·人多的原故》,《北京益世报》1921.3.19
- 梅蒐,《余墨·朱亚民撞木钟》,《北京益世报》1921.3.20
- 梅蒐,《余墨·小民该死》,《北京益世报》1921.3.30
- 梅蒐,《余墨·名利》,《北京益世报》1921.6.18
- 梅搜,《余墨·朝鲜人也叫横》,《北京益世报》1921.8.20
- 梅蒐,《余墨·错念蒐字》,《北京益世报》1921.8.28
- 梅搜,《余墨·疯大夫》,《北京益世报》1921.9.11
- 梅蒐,《余谈·三怕》,《北京益世报》1921.1.21
- 梅蒐,《余谈·总算进化》,《北京益世报》1921.1.18
- 梅蒐,《余谈·无愧热心君子》,《北京益世报》1921.1.25
- 梅蒐,《余谈·印子赵》,《北京益世报》1921.2.20
- 湛引铭,《讲演聊斋·白莲教(再续)》,《中国近代各地小报汇刊第一辑》38《群强报》,学苑出版社,2012.5
- 杨曼青,《杂碎录》,首都师范大学出版社,2014.6

【参考文献】**（中国語）**

- 李运博，《近代汉日词汇交流研究》，外语教学与研究出版社，2018.1
- 陈明娥，《日本明治时期北京官话课本词汇研究》，厦门大学出版社，2014.5.
- 姜亚沙、经莉、陈湛绮编辑，《京话日报》，全国图书馆文献缩微复制中心，2006.
- 《北京益世报》（缩微胶卷），中华全国图书馆文献缩微中心，1987.
- 《顺天时报》（缩微胶卷），中华全国图书馆文献缩微中心，1986.

（日本語）

- 日本大辞典刊行会編集，『日本国語大辞典』，小学館，1994.6.
- 惣郷正明・飛田良文，『明治のことば辞典』，東京堂出版，1986.12
- 飛田良文・菊池悟共編，『和英語林集成 初版 訳語総索引』，笠間書院，1996
- 井上哲次郎、有賀長雄，『哲学字彙』，東洋館，1884，国立国会図書館デジタルコレクション

本稿は平成27年度・28年度本学研究助成を受けたものである。